

熊野活行社長さんの著書

「老化は血管のサビが原因だった」出版に際して

私が熊野活行社長さんに初めてお会いしたのはおよそ二十数年前、日本システム企画株式会社 北海道代理店の設立記念式典に招聘された時のことでした。来賓挨拶で表面（界面）工学について一般向けの話をしたところ、熊野社長さんは大変関心を持たれました。式典後はかなり話し込んだ記憶があり、探求心の強い方だとの印象を受けました。

当時、私は知人から「NMRパイプテクター」について相談を受けていて、関連資料を科学的に解析・検討していました。工学は実学ですから、配管の現場に赴いてフィールドワークで調査・検証を行い、配管更生効果について科学的に十分な確証を得ました。さらに、念のため公的施設で立証結果を出すために北海道立工業試験所に赴き、平成13年7月から11月まで築25年を経過した研究棟の給水配管で実証実験を行ったところ、極めて高い効果を確信できる科学的評価が得られました。

「NMRパイプテクター」の心臓部はブラック・ボックスであり、企業秘密です。しかし、企業との協同研究は現役時代に経験したことがあり、違和感はありませんでした。

「NMRパイプテクター」は、合理的で検査や査定が厳しいイギリスにおいて、バッキンガム宮殿や歴史的建造物など、およそ200件以上の採用実績を持ち、国内でも4200件以上の実績があり、さらには世界各国に普及し、高い実績を上げた実証結果を持っています。

私事にわたり恐縮ですが、私が理学部物理学科3年目の時、雪の結晶に関する研究で有名な中谷宇吉郎先生の講義を受ける幸運に恵まれました。講義が一段落

すると、先生はいつも雑談で有意義なお話をなさいます。なかでも特に印象に残っているのは、「科学者は謙虚でなければならぬ。先達曰く『科学者は広い真理の砂浜で、無心に遊ぶ赤子である。』自分が得ている知見だけが真理と思うな。真理は無限にある」と。

熊野活行社長さんは、限りなく沸き出さずアイディアと底なしのバイタリテイにより、次々と「世界初の防錆技術」を世界の水道インフラ分野から異なる分野まで広げ、超人的な発想力を加えながら、生体生理学の分野で大変貴重な成果を数多く出され、学会講演を行っております。また、「NMRパイプテクター」処理工水の物性値が変化を示していることは、研究開発の当初から話題になっていましたが、膨大なデータを根気よく解析し、普及型測定器を開発するなど、他の研究開発にも誠意努力しています。

本書は、熊野活行社長さんの集大成ではありません。あくまでもダイジェスト版です。

『人生 一五〇年』です。

熊野活行社長さんの為された業績は多岐に渡り、あまりにも多く、例えば、

- (1) 技術編
- (2) 生体生理学編
- (3) 健康・福祉編
- (4) 世界遺産編
- (5) Kグリーンエナジー編などがあり、集大成はこれからです。

熊野活行社長さんには健康に大いに留意いただき、さらなるご活躍を祈念いたしながら筆を置きます。

令和四年一月吉日

北海道大学名誉教授 勇田 敏夫

熊野活行君の著書

『老化は血管のサビが原因だった』を読んで

本著書の作者、熊野活行君は東京理科大学工学部 工業化学科に所属し、私の研究室で一年間卒業研究を行い、優秀な成果を挙げて卒業した者です。

彼は卒業後に進路を自分で開拓していきしましたが、私の研究室の大きなテーマは界面化学でありました。彼が社会に出て研究したのは、鉄管と水との界面におけるサビ止めという界面化学でありました。

さらに進んで血管の老化防止という生体系の界面化学でありました。

これらの研究成果がこのたびの著書の内容であります。

この著書の中で私が特に注目しているのは、第十四章にある著者が開発したNMRパイプテクターによる血圧低下測定という薬剤を使用しない方法であります。

こちらは注目すべき方法としてさらに発展し、利用されることが期待されます。

以上が、彼（著者）が著書で述べた中の最大の成果（しかも界面化学的成果）であると私は考えます。そしてこの成果は大変貴重であると言えます。

二〇二一年 十二月 吉日

監修 東京理科大学名誉教授

北原 文雄

